

学校・保育施設の 統廃合について

各学校や施設の児童・生徒、園児の数は減少傾向が続いており、本年度の小学校の新入学児童数は百十二名です。平成二十一年度の予測は八十八名です。

既に統廃合を経験している方からの助言もいただきました。「教育効果を高めるため、小中学校の早期統廃合の実現を望む。」

(本町)
「国際化に対応し得る人材育成のため、教育の質の向上が必要。」

(平館・谷津作)
「小野町の子ども達は、昨年度自転車での準優勝、柔道、バレー、野球での活躍、小野高校農業クラブの活躍など優秀で頑張っている。」

(小野赤沼)
「町が統廃合の具体的な構想をまとめて住民に提案しなければ、地元の話し合いの材料にもならない。」(小戸神)

「今後、統廃合が議論される中では、足の確保(スクールバス等)は入れて欲しい。」(湯沢)

教育の「質」の確保と、「共育」「競育」の環境が求められています。

公立小野町地方総合 病院の常勤医師の 確保について

安心して生活するうえで、医療の充実は条件の一つといえます。公立病院の常勤医師の確保を求める声が多くありました。

「安心してすみ続けられるために医療体制の充実が必要と思う。」

(横町・中通)
「少子化の時代にあって、常勤の産婦人科医師がいることで、安心できると思われる。」(大八)

「産婦人科がなくなってしまう。子どもを産む人にとっては、近くに産婦人科がないと心配である。」(飯豊中)

「眼科、耳鼻咽喉科は福島医大から先生が来ている関係で、同じ先生に診てもらうことが少ないと思う。」(和名田)

「総合病院の看護婦は、よその病院と比較すると「威張っている」と感じられる。職員の教育が必要と考える。」(浮金)

「送迎バスは、三和町だけでなく、沿線の利用者でも乗せてほしい。」(和名田)

定住人口の 確保について

小野町の人口は、昭和三十三年の一万七千七百十八人をピークに人口の減少が続いています。人口の町外流出を抑えるための方策や、町外から人を呼び込む方策などの提言がありました。

「人口は、自治体としての基礎であると考え。人口増加を図るための施策が必要。」(仲町)

「若者が就職、定住ができる環境が整備されることが望ましい。」(吉野辺)

「人口・財源の減少への対策をメインとすることではなく、逆の発想で進めていかないと、小野町は廃れてしまうと思う。」(小野山神)

「新たな企業の誘致も必要だが、既存の中小企業を盛り立てるための考えを期待する。」(塩庭一区)

「今後、帰農者は増えると思う。受皿対策を考えれば、人口減少の抑制にも繋がると思われる。」(塩庭二区)

「都会から人を呼び込むためのPRも必要、金をかけるところにはかけないといけない。」(上羽出庭)

行政サービスの 向上について

ライフスタイルの多様化から、行政への需要も変化しており、対応が求められています。

「平日は会社勤務等により、役場窓口の利用ができない方の住民向けサービスが必要。」(仲町・和名田)

「夫婦共稼ぎの場合、出退勤の時間によっては、朝夕の時間に間に合わない場合があるため、保育時間の延長をお願いしたい。」(菖蒲谷・湯沢)

「千本桜の時期に設置する仮設トイレについて、特に高齢者や障害者への配慮が必要。」(夏井・南田原井)

「町民が光ケーブルを利用できる環境整備が必要。」(飯豊下)

この外にも沢山の意見や提言をいただきました。全てを紹介できないのが残念ですが、何と云っても「対話会が対話だけで終わることのないよう、実の入った結果となるようお願いします。」との声を大切に、今後につなげて行きたいと思えます。